

学生のキャリア選択を支援するキャリア教育プログラムの設計： 動機の向上および学習活動の継続支援を目指して

Construction of Career Education Program which supports students for their career decision making:

Aiming to contribute to the promotion of motivation and continuation of learning activities

三浦 玲* 都竹 茂樹*/** 平岡 斉士*/** 合田 美子*/** 柳澤 絵美***

Rei MIURA* Shigeki TSUZUKU*/** Naoshi HIRAOKA*/** Yoshiko GODA*/** Emi YANAGISAWA***

*熊本大学大学院 教授システム学専攻 **熊本大学 教授システム学研究センター ***明治大学 国際日本学部

*Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University **Research Center for

Instructional Systems, Kumamoto University ***School of Global Japanese Studies, Meiji University

＜あらまし＞ 本研究は、インストラクショナルデザイン手法を援用した学生のキャリア選択に関する動機を高め、また、キャリア選択をするための学習活動を継続する行動が起こせるようになるようなキャリア教育プログラムの設計および開発を目的としている。

＜キーワード＞ キャリア教育、インストラクショナルデザイン、大学教育、自己理解、授業設計

1. はじめに

1-1. 背景

2010年2月の大学設置基準改定により、教育課程における職業指導（キャリアガイダンス）が義務付けられたが、大学における支援は、これから就職活動が始める学生に向けた就職・進路概要や職業マッチング型のガイダンス実施、個別指導などにフォーカスを当てた旧型の支援が主であった。高等教育機関におけるキャリア支援は、主に3年次の学生向けに行われている。内容は、秋学期から始まる支援センターや学部主催によるキャリア（進学や就職）の選択方法を伝えるガイダンスが中心である。一方で、人材が流動化する雇用環境のなか、就職活動のみならず人生全体にフォーカスを当てた新型の支援方法が必要であり、需要やその取り組みは年々増加している。しかしながら、具体的な支援の実施や効果の検証は、まだほとんど行われていない。

昨今の新卒採用動向としては、就職活動時期の変動、通年化さらに就職活動の早期化を求める動きが加速している。学生たちには就職活動において、自らを知り理解する「自己分析」や雇用される企業や職種など、仕事を知り理解する「企業・業界研究」に加えて、履歴書やエントリーシートといった書類選考や面接選考などの各種選考方法を学びつつ、ある程度時間をかけて準備することが求められる。学生たちのなかには、就職活動で問われる大学時代の経験や自身の価値観や強みなどの自己理解、職業理解、将来のキャリア選択に向けた具体的な活動や大学での過ごし方などを意識せず、卒業後の進路選択期に突入し戸惑う者も少なくない。以上より、早期からキャリア選択に関する学習活動に取り組める教育プロ

グラムを設計開発・実施する必要がある。

1-2. 目的・対象

本研究の目的は、3年次の就職活動時期（3年次の後期以降）前までにキャリア教育をはじめめるための教育プログラムを設計することである。早期にキャリア教育を開始することで、自身について、キャリアについて、熟慮する時間が確保でき、キャリア選択に対して自分で選択できるという自己効力感が高められると考える。「やってみよう」と思えるような動機づけをし、主体的にキャリア選択を行うための学習活動を継続する行動が起こせるようになるプログラムが必要である。本研究では、学生のキャリア選択を行うための学習活動への動機づけがされ、学生自身が今から何をすればよいのか考えて自主的かつ具体的に動きだせるようになる教育プログラムの設計開発を目指す。

2. 研究の方法

2-1. 概要

教育を中心とした学びの効果・効率・魅力を高めることを目指したインストラクショナルデザイン（以下、ID）手法で大学生の3年次の就職活動時期（3年次の後期以降）前にあたる学生を対象としたキャリア支援セミナーを新規設計した。セミナーは、ワークシートを活用した個人ワークやペアワーク、グループワーク中心で、楽しみながら自己分析・自己理解・仕事理解をし、学習活動を動機づけられつつ、キャリア選択に関する自己効力感を醸成することを目標とした。

2-2. 教育プログラムの設計

キャリア支援セミナーは、杉山ら（2018）「キャ

リア心理学ライフデザイン・ワークブック」を基に、強みを発見することをテーマにおいたワークシートを用いて学習活動を行う教育プログラムとして設計した。ID 手法は、学習の必要性や効果を確認するための 3 つのテストと教授方略として M・デイビッド・メリルの「ID 第一原理」、学習を支援するプログラム構成としてロバート・M・ガニエの「9 教授事象」を援用した。当日のプログラム時間は 100 分間で 2 名に対し、表 1 の「セミナーのプログラム設計」の流れで実施した。また、補助教材として、ワークシートを 4 枚使用した。

表 1: セミナーのプログラム設計

セミナー 目次	セミナー内容
1 導入	導入（概要および学習目標の提示。また、注意喚起として、講師の自己紹介を事例紹介とし学習目標に興味を引くように設計）
2 情報提示、 具体例の提示	前回のワークの振り返りとこれまでの前提知識を呼び起こす新しい事項・強みを発見し、強化し、人に伝えられるようにしていくプロセスの提示。具体例として講師の事例を提示
3 学習活動	強みを発見する学習活動の指針を提示。個人ワーク、ペアワーク、グループワークの順に練習の機会を作る。それぞれフィードバックを与えながら、次の段階へ進行
4 まとめ	全体に対して、各自感想や気づいたこと、学習目標に対しての評価としてコメントするよう設計。併せてアンケートも実施し、学習成果を評価。次のアクションプランを各自が検討し動き出せるようにすることで保持と転移を高めるよう設計。発展学習の機会も提示

2-3. データ収集と分析

活動はカークパトリックの 4 段階評価モデル（本研究ではレベル 3（行動）まで）で評価し、このプログラムの効果を検証した。事後アンケートに事後テストとアクションプランシートの機能も持たせ、個別に本セミナーのファシリテーターであるキャリアコンサルタントとの発展学習の機会も設定した。その際のインタビューも補助的な指標として参加者のプログラムへの評定とした。

3. 結果と考察

3-1. アンケート結果

当日参加した学生の事後アンケート結果より、2 名とも学習目標を達成したといえる。アンケートは 5 項目で、I. 講座の満足度、II. 強みに気づけて伝えることができたかどうか、III. そう答えた理由について、IV. 今後の自分の将来に向けて何をしようと思うか、V. IV. で答えたことをすることで何ができるようになるかといいかを尋ねた。I. と II. は、2 名とも 5 点「とても満足」、5 点「よく気づけた」と回答。III は、具体的に回答。IV については、1 名は「インターンシップ」「強みを活かせる仕事を探す」と複数回答し、もう 1 名は「もっと考えて強みを明確化する」と回答。また、V. では、具体的な抱負も述べていた。自分の強みに気づきを得て伝えることができた実感も持ちつつ、さらに今後の自分についてさらに強みを増

やしたり、深めたりすることができるように具体的な行動を主体的に考えられていることが把握できた。また、2 名とも発展学習に参加した。

カークパトリックの 4 段階評価モデルによる活動評価は、レベル 4（業績）は今回のセミナーだけで提示するのは難しい。だが、レベル 1（反応）とレベル 2（学習）は、アンケートの I. と II. の結果から達成でき、レベル 3（行動）は、発展学習に参加し、その時の行動からも学生にとって有益な自己分析となったことと、大学事務部の業務として必要な学生支援活動が行えたことがあてはまると考える。

3-2. 継続的な実施研究の必要性

今回、ID 手法を意識し設計したセミナーによって、学習成果が得られた。「楽しかった」という感想が寄せられたことから効果と効率に加えて楽しみながら学ぶことでもっとやりたいと思わせる「魅力的な設計」の重要性を再認識した。今回は一定の効果が得られたものの、1 回で自己効力感が高まったという結果を導き出すことは困難で参加人数も少なく効果測定するにはデータ不足である。また学習者の状況や講師の関わり方などによっても効果が得られない可能性もあると考えられる。

4. 今後の研究計画

学生たちが自己効力感を高め、「やってみよう」と思えるような動機づけをし、主体的にキャリア選択を行うための学習活動を継続する行動が起こせるようになるプログラムとするために、J. ケラーの動機づけの「ARCS モデル」に基づいて 3 回シリーズのプログラムを設計開発することにした。本研究のセミナーを 3 回シリーズの 1 回目として組み込んだプログラムでエキスパートレビューを実施した。妥当性を評価し、倫理審査を終えて、これから 4 つの実践グループにおける授業実施を準備している。さらに、昨今の新型コロナウイルス感染症対策関連により、フルオンライン実施または第 3 回目の授業のみ対面実施予定で再設計中である。本プログラム実施後、結果の分析から、早期のキャリア支援方法に関する示唆が得られることが期待される。さらに、学生が卒業後のキャリアを見据えて、有意義な大学生活を過ごすための支援、主体的なキャリア選択のための支援について、議論を深めることにも寄与したい。

参考文献

ガニエ・ウェイジャー・ゴラス・ケラー著、鈴木克明・岩崎信（監訳）（2007）『インストラクショナルデザインの原理』

杉山崇・馬場洋介・原恵子・松本祥太郎（2018）キャリア心理学ライフデザイン・ワークブック